

人材養成および教育研究上の目的		
理学研究科は、自然科学に関する研究を通して自然と調和した社会の健全な発展に貢献するという理念のもとに、自然科学に関する総合的で深い学識を持ち自立して研究活動を行い得る高度な研究能力を持つ人材及びこれらの学術的素養を活かして社会で活躍できる能力のある専門職業人を育成することを目的とする。博士課程前期では、専門分野に関する学識を養い、それを応用する能力、それに基づいた研究能力を体得させる教育を行う。博士課程後期では、前期課程の教育をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な研究能力を備えた人材の育成を図る。		

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程前期＞		
理学研究科では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（理学）の学位を授与する。	理学研究科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	理学研究科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 ・自然科学や数理学の深い学識を修め、専門分野における研究能力又は専門的職業に従事するに必要な能力を有している。(DP1) ・基礎となる豊かな学識と広い視野を有している。(DP2)</p> <p>【到達指標】 ・専門的知識を身に付けている。(DP1) ・広い視野に立って学識を修め、専門分野の社会における位置づけや社会との関わりを理解できる。(DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 専修部門ごとに設置した講義科目や専攻ごとに設置した特論科目を中心として、専門分野における学識を身に付ける。一部の特論科目は専攻を超えて履修できる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 様々な特論講義や研究室ゼミ、文献調査等、コースワークとリサーチワークを組み合わせて、専門性ととも幅広い知識を修得する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義レポートや文献発表、研究成果の発表等の内容やそれらの理解度を評価する。(DP1・DP2)</p>	<p>【求める学生像】 一定水準以上の学力があって、かつ自然や数理の諸現象に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 ・専門分野における研究手法を身に付け、計画的に研究を遂行できる。(DP3) ・自然科学や数理学の論理的思考方法を身に付けている。(DP4) ・研究成果を整理して発表できる。(DP5)</p> <p>【到達指標】 ・専攻分野に応じて必要な技術を身に付けている。(DP3・DP4) ・得られた研究結果を論理的に考察し、研究成果を発表できる。(DP5)</p>	<p>【教育課程の編成】 専修部門ごとに設置した講義科目、実験・演習科目を中心として、専門的な研究手法や論理的思考方法を身に付ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 主として、リサーチワークを通じて、それぞれの専門性に合った研究を遂行し、研究に必要な技能や論理的思考力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究室での日常的な議論や研究進捗状況の把握、中間発表会などを通じて評価する。(DP3・DP4・DP5)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 一般入試では、試験による学力評価と面接評価を組み合わせ、優秀な学生を選抜する。 特に成績優秀な学部学生には、3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。 自然科学全般に関する広い見識の重要性から、他大学・他学部の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 ・専門的な学識や研究手法を主体的に修得しようとする態度を持っている。(DP6) ・修得した専門的知識や技能を生かして、実社会に貢献しようとする志向性を有している。(DP7) ・研究倫理を身に付けている。(DP8)</p> <p>・幅広い分野の研究や新しい知見を自ら学ぼうとする姿勢がある。(DP6) ・専門的知識や技能を分かりやすく人に説明することができる。(DP7・DP8)</p>	<p>【教育課程の編成】 専修部門ごとに設置した講義科目、実験・演習科目を中心としながらも、より幅広い特論科目の履修も含めて、主体的・積極的な態度や志向性を身に付ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 リサーチワークやコースワークを通じて、研究に取り組む真摯な姿勢を養い、専門的知識や技能を修得して、社会に貢献しようとする態度を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 日常的な研究遂行における、主体的な工夫や態度、コースワークにおける受講態度や姿勢、レポートの書き方・内容等を評価する。(DP6・DP7・DP8)</p>	
＜博士課程後期＞		
理学研究科では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（理学）の学位を授与する。	理学研究科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	理学研究科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 ・自然科学や数理学の研究者として自立して研究活動を行い得る能力を有している。(DP1) ・高度な専門的職業に従事するために必要な卓越した研究能力を有している。(DP2)</p> <p>【到達指標】 ・研究成果が新たな知見を含む。(DP1・DP2) ・査読付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されている。(DP1・DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 専修部門ごとに設置した研究指導科目や専攻ごとに設置した特論科目を中心として、専門分野における深い学識を身に付ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 後期課程では、リサーチワークに一層の重点が置かれるが、外部講師による特論科目も取り入れて、最先端の研究動向についても学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究レポートや進捗状況報告等の内容や新しい知見の有無を評価する。(DP1・DP2)</p>	<p>【求める学生像】 自然現象や数理の解明に強い意欲を持ち、探求心と目標とする研究を遂行するための能力のある人材を受け入れる。 社会における諸問題解決に向けて意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 ・先行研究の成果や研究手法を十分に把握した上で、独自に新たな手法を開発し、独創的な研究成果につなげることができる。(DP3) ・研究成果を学会で発表できる。(DP4)</p> <p>【到達指標】 ・自らが新たな知を創造し、更なる価値につなげることができる。(DP3) ・筆頭著者、責任著者として、自らの責任のもと、学術誌に論文を投稿できる。(DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 専修部門ごとに設置した研究指導科目を中心として、指導教員の指導を受けながらも、独自性を発揮して研究を進め、研究成果を学会等で発表する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 研究指導科目のうちから1専修部門を選定して、その学生の専修科目とし、主指導教員の指導を受けるとともに、副指導教員のアドバイスも受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究遂行過程における独自性や新規性、研究者としての自立性を評価する。(DP3・DP4)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 修士論文等の内容の精査と面接審査等によって、探求心と目標とする研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつ、問題解決に向けて意欲的に取り組む姿勢を評価する。 福岡大学以外からの志願者については、学力試験も実施する。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 ・自ら研究上の課題を発見し、課題解決に向けた研究方策を立案する意欲を持っている。(DP5) ・直面する課題以外にも、関連する他の研究者や同僚の課題や手法に興味を持っている。(DP6)</p> <p>【到達指標】 ・自らの課題に向き合い、解決方法を模索しつつ、計画的に研究を進めることができる。(DP5) ・研究倫理に関する規範意識を身に付けている。(DP6)</p>	<p>【教育課程の編成】 優れた研究業績を上げた学生は、在学期間や必要修得単位数を減らすことができる。 学位取得に向けたガイドラインを参照して研究を進めながら、研究者として自立できる能力を身に付ける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとのゼミナールを重視し、自立した研究者としての態度を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 幅広い分野の研究や最先端の研究動向についても学ぼうとする積極性を評価する。(DP5) コンプライアンス意識の度合いを評価する。(DP6)</p>	